

第34回 七五読み古事記勉強会

八俣遠呂智



倭塾サロン
小名木善行

前回までのお話

高天原を追われた須佐之男命は

奥出雲の鳥髪（とりかみ）の地で

童女の中に置いて泣いている

足名椎と手名椎（てなづち）と出会いました。



今回のお話（現代語訳）

速須佐之男命は、足名椎に言いました。

「おまえの娘を私にたてまつれ！」

足名椎が答えました。

「恐れ多いことです。けれど私は

まだ貴方様のお名前を知りません」

須佐之男命が答えました。

「私は天照大御神の伊呂勢（いろせ 自伊下三字以音）で、

いま天から降ってきたところです」

足名椎と手名椎神が言いました。

「そうであれば恐れ多いことです。たてましましょう」

速須佐之男命はその童女を湯津爪櫛（ゆつつまくし）に

取（とり）り成（な）して御美豆良（みみづら）に刺（さ）すと

足名椎手名椎神に次のように申されました。

「おまえたちは、八塩折（やしおおり）の酒を醸（か）み、

また垣（かき）を作りまわしなさい。

垣には八つの門を作り、

門ごとに八つの佐受岐（さずき 此三字以音）を結いなさい。

佐受岐（さずき）ごとに酒船を置き、

船ごとに八塩折の酒を盛って待ちなさい」

こうして告げられた通りにして備え待っていると、

八俣遠呂智（やまたのおろち）が言っていたとおりに

やってきて、船ごとに頭を垂れ入れて、

酒を飲みました。そして酔って伏して寝てしまいました。

しかしてはやの
おきなにみこと
のらしては

尔速須佐之男命
詔其老夫

「いましのむすめ

あにたてまつれ」

「是汝之女者奉於吾哉」

こたへていはく

「そいはかしこしと

答白「恐

ただまだみなを

あれしらず」

亦不覺御名」

またこたへては

「あはあまてらす

尔答詔「吾者天照

おほみのかみの

いろせなり

大御神之伊呂勢者也

（自伊下三字以音）

それゆゑにいま

あもります」

故今自天降坐也」

してあしなつち

てなつちのかみ

尔足名椎手名椎神

まをさくは

白

「しかりいまさば

かしこしゆゑに

「然坐者恐

たちたてまつらむ」

立奉」

しかしてはやの

すさのをは

尔速須佐之男命

をとめのゆつま

くしをとり

乃於湯津爪櫛取成其童女而

みづらにさして

つげつには

刺御美豆良告

其足名椎手名椎神

「いましらさけを

やしおおり

「汝等釀八塩折之酒、

かきをつくりて

もとほして

亦作廻垣

かきにやかどを

つくりては

於其垣作八門

かどごとにやを

さづきゆひ

每門結八佐受岐

（此三字以音）

さづきのごとに

さかふねに

每其佐受岐置酒船而

やしをのよりの

さけおきてまで」

每船盛其八塩折酒而待」

のらせるままに

かくのごと

故隨告而如此

まふけそなへて

まてるとき

設備待之時

やまたのをろち

ことごとの

其八俣遠呂智

ごとくにきては

ふなごとに

信如言来乃每船

おのがかしらを

たれいりて

垂入己頭

そのさけのみて

のみゑひて

飲其酒於是飲

とどめふしては

いねいたる

醉留伏寝

名を名乗る

須佐之男命は名を名乗らず娘を求めました。
名乗った瞬間に全責任を負う立場に。
日本では身分の高い者が名を名乗らないのは、
名乗れば必ず「責任」を果たすという
慣習に基づきます。

日本語の責任 関係責任

英語の責任 応答責任（レスポンスビリティ）

務め（つとめ） :: 責任を果たすべきこと、役割を指します。

責務（せきむ） :: 義務や責任を指します。

咎め（とがめ） :: 過ちや欠点を取り上げて責めること

請け取る（うけとる） :: 責任を引き受けることを指します。



櫛名田比売を美豆良に刺す

須佐之男命は櫛名田比売の櫛を
自らの髪に刺し、

村を守る決意を示します。

これは戦の前に
大切な人の形見を身につける
武人の誓いを象徴します。

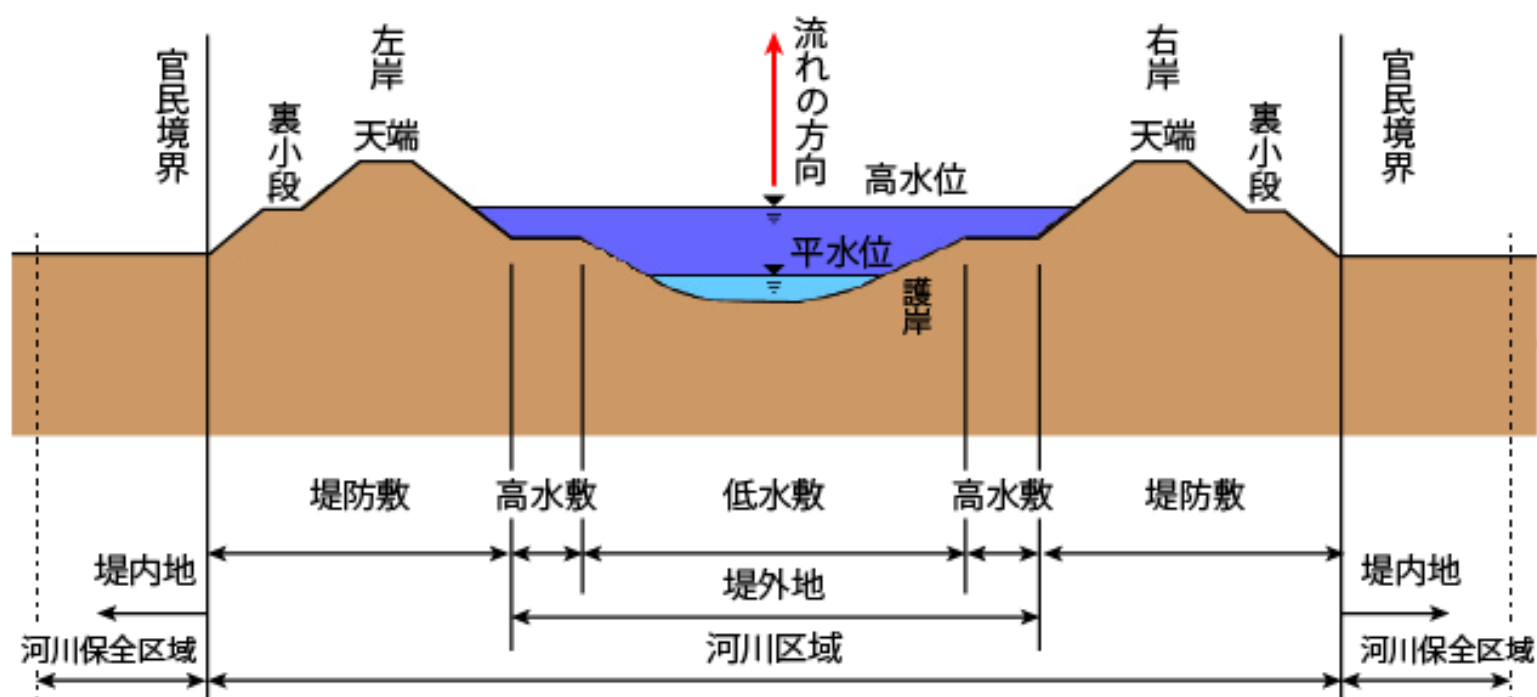


重文 鳥浜貝塚の櫛
六千年前の祈り

垣をつくる

八塩折の酒を造り、堤防＝「垣」を築くよう命じます。

これは洪水を防ぐための治水技術を村人に教えたことを示しています。



佐受岐を造って酒を盛る

堤防に水門（八門）を設け、
佐受岐（栈敷）を築いて酒を供え安全を祈願。
水害への備えと神々への祈りの場でもあります。

2階栈敷（1等席～2等席）

1階栈敷（東側）

七三（しちさん）

花道（はなみち）



遠呂智退治

堤防と水門で洪水を防ぎ、
村を守る。

神話の記述は、こうした
具体的な治水対策を
象徴的に語ったものと考えられる。

今は

家やビルが増えて、地面がコンクリートなどになったため、降った雨がそのまま川に流れて、洪水が起こりやすくなりました。寝屋川流域は土地が低いため、降った雨が川に流れにくいことも原因の一つです。



むかしは

山や森、田んぼや畑がスポンジのように水を吸い込んでいたから、雨が降っても、すぐには川の水は増えませんでした。



遠呂智退治の意味

須佐之男命は、
靈力を奪われてもなお、
知恵と努力で村人を救いました。
真のリーダーとは、
誇りをもって
民のために尽くす
人物であることを
神話は教えてくれています。

